



企画・制作
国境なき医師団日本
朝日新聞社広告局 **広告特集**

Frontline

国境を超えて命と向き合う

[フロントライン]

Vol.08
September 15, 2013

Feature

日常を追われた 人びとに寄り添う 緊急医療

インタビュー

「子どもの心に刻まれた傷を
つきつけられた思いでした」

「MSFは彼らが『難民』や『避難民』だから
援助を提供するわけではありません」

市民は、ある日 「難民」になった



©Michael Goldfarb / MSF

パーキンソン病を患うシリア難民の老人と家族。内戦で家族20人がイドリブの住まいを追われ、レバノンのトリポリに逃れてきたが、水道も暖房もない2部屋での暮らしは過酷を極める。

私たちが難民や国内避難民になる日……それは突然やってきます。
危険でも国内にとどまらざるをえない人、国外に逃れて難民になる人、難民登録さえ受けられず、援助が届かない人……。
どんな立場であれ、過酷な環境に取り残された人びとの命を支えるため、
国境なき医師団(MSF)は緊急医療を届けつづけています。

日常を追われた 人びとに寄り添う 緊急医療

援助が届いていない 人びとのもとへ

—MSFの緊急医療援助とシリア内戦

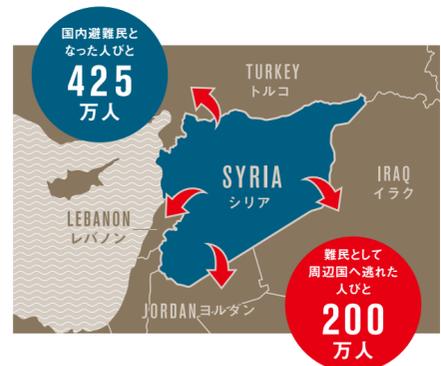
MSFは紛争などの人災や自然災害で多くの人が命の危険にさらされる可能性がある場合、速やかに現地へ赴いて医療ニーズを確認し、必要があれば迅速に医療活動を開始します。また、「独立・中立・公平」を貫き、政治的社会的な所属や難民・避難民としての認定状況などにかかわらず援助を提供しています。

2011年から続くシリアの内戦は、都市部を中心に経済や社会基盤を崩壊させ、市民が国内外で命の危機に瀕する事態を招いています。また、反体制派と見なされた医療施設や医療従事者が攻撃や迫害を受けるなど医療活動もままなりません。既に犠牲者は11万人¹⁾を超え、住居や家族を失って国内を転々とする避難民は約425万人²⁾、イラクやレバノン、ヨルダンなど周辺国へ脱出して難民となった人びとは約200万人³⁾を超え、その数は増える一方です。そのため周辺国の受け入れは限界を超え、難民登録にも時間を要し、その存在さえ公認されず援助を受けられない人も数多く存在します。

MSFはシリア政府からの同意が得られないまま国内での活動を継続し、8月末現在、北部の反政府勢力支配地域10カ所の医療施設で活動するとともに、周辺国でも逃れてきた人びとに医療を提供しています。

しかし、緊急援助を必要としている人の数は約680万人⁴⁾といわれ、彼らの膨大で緊急性の高いニーズに対応するための、国際社会の一刻も早い援助拡大が強く待たれています。

*1: シリア人権監視団(SOHR)(2013年9月発表)
*2, 3: 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)(2013年9月発表)
*4: 国連人道問題調整事務所(OCHA)(2013年6月発表)



シリア北部の村でMSFの援助物資を受け取る家族。



圧倒的な物資不足 水も食糧も医薬品も

「私たちは観光に来たのではなく、内戦を逃れてきたのです。4月にレバノンに来たアマルさん一家をはじめ、着の身のまま逃れてきた人の多くが、家や食糧、清潔な水、薬など最低限の生活必需品を得られずにいます。レバノンで活動するMSFのマハ・ナジャ医師は「街で薬を買うにも高額で、シリアの人たちには入手が難しい」と話します。MSFは物資を届けつつありますが、避難する人の数は増加の一途で、国際社会の支援も圧倒的に不足しています。

MSFが設置したシリアの仮設病院で生まれた双子の赤ちゃん。



命がけの出産を 余儀なくされる 母親

「ある女性は双子を身ごもっているのに気付いていませんでした。一人目の出産後もお腹が大きかったのです。医師と看護婦も驚きました。難産でしたが幸い母子ともに健康です。シリアにあるMSFの病院で働くスタッフの話です。内戦で周産期ケアの提供場所がなくなり、産前健診を受けられずに起きたケースです。避難生活で最も命のリスクにさらされやすいのは母子。MSFはシリア内外で産科医療を提供し、国内では活動開始から1年で1100件以上の分娩を介助しています。

シリア国内にMSFが設置した病院のテント式外科手術室。



標的となる市民。 追いつかない 負傷者の治療

シリアのMSFの病院に入院する男性は、「学校で、モスクで、パン屋に並ぶ列で民間人が標的に」と訴えます。紛争勃発以来、空爆や掃討による負傷者が後を絶ちません。シリア国内でMSFは10カ所の医療施設で活動し、たどりつけない医療施設には医療物資を供給。周辺国ではシリアから搬送された負傷者の再建手術なども行っています。

断たれた医療、 追いつかない援助

シリア内戦に見る、膨大な医療ニーズ

治療の道を閉ざされた 慢性疾患の患者



救急治療室で糖尿病の治療を受ける男性。シリア国内のMSFの病院にて。

イラクのドミーズ・キャンプでカウンセリングを受けるシリア難民の男性。



肉親を失い、 強いストレスに さらされる人びと

「息子は行方が知れず、兄弟の1人も姿を消しましたが、家族の前では毅然と振る舞わなくては……」と、レバノン南部の難民キャンプで暮らすマフムードさん。人びとの間には、子どもや高齢者を中心に抑うつ症、不安障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)などの症状が広がっています。劣悪な環境と帰国のめどが立たない日々は、さらに強いストレスを与えており、MSFでは心理療法士やソーシャルワーカーがそうした人びとへの家庭訪問や心理ケア・プログラムに取り組んでいます。

「高血圧、心疾患、ぜんそく、糖尿病といった慢性疾患への対策に直面しています。シリアの保健医療が崩壊し、状況は悪化の一途です。シリアで活動したMSFスタッフのカリム・キスワニは現地の状況をこう伝えました。内戦前は治療できていた慢性疾患も、薬不足や治療の中断で患者は体調を悪化させ、多くの人が亡くなっています。MSFは医療施設だけでなく、移動診療も実施しながら、子どもや妊婦、高齢者同様、慢性疾患を抱える人びとへの医療を優先的に提供しています。

レバノンでMSFの予防接種を受けるシリア難民の少女。



予防接種の 中断が脅かす 子どもの命

内戦が続く中、シリアでは広い地域で予防接種が中止され、北部だけで7000件以上(2013年6月時点)のはしかの感染が確認されています。はしかは治療がなければ、合併症で命を落とす危険もあります。「紛争下の予防接種は容易ではありませんが、外傷治療に劣らず重要で」とMSF緊急対応統括責任者のテレサ・サンクリストバル。MSFは北部で7万7000人以上の子どもの予防接種を実施しましたが、空爆の標的とならないよう行列ができるのを避けるなどしています。

シリア南部のイドリブ県で、治安部隊に襲撃された民間の仮設病院(2012年5月)。

シリア難民が身を寄せるイラクのドミーズ・キャンプ(2012年5月)。



5000人の定員に 3万5000人が 滞在する難民キャンプ

MSFのプログラム責任者エミリー・ハドは4月、受け入れ能力が限界を超えたイラクのドミーズ・キャンプについて「患者の半数が呼吸器感染症です。10人以上が1つのテントで暮らす過密さが一因で、貧弱な給排水・衛生システムのため下痢も増えており、環境改善策の確立が急務」と現地の状況を報告しました。MSFは感染症へのケアと、清潔な飲用水の配給やトイレ、シャワーの増設を行うなど、劣悪な給排水や衛生状態の改善にも努めています。

「心に刻まれた傷をつきつけられた思いでした」

MSFの緊急援助チームの一員として、4～8月の間に2度、シリア北部の仮設病院で活動しました。人口約5000人の町でしたが、約1万人の避難民が暮らすキャンプができていました。過密なテント生活は衛生上の問題があり、冬になれば寒さも過酷です。

爆撃や銃撃による外傷、PTSDに苦しむ患者のほか、特に子どもには呼吸器感染や胃腸炎などが見られ、はしかの流行も発生しました。心臓病や慢性疾患の治療を紛争で中断された患者も多く、前立腺がんを患っていたある老人は、予定していた手術日直前に空爆で家を破壊され、診療記録をすべてなくしたと助けを求めてきました。

また、国境に近いトルコの町で食事をしたときのこと。レストランを手伝っていた少年に「学校へ行っているか」

と尋ねると、「戦争が僕たちの生活を破壊したんだ」と一言。あとは黙って仕事へ戻りました。彼はシリアから逃れてきた難民一家の1人でした。突然すべてを失った家族の境遇と、子どもの心に刻まれた傷をつきつけられた思いでした。さらに、辛い経験を余儀なくされているのは、ともに働く現地スタッフも同じです。医療行為は攻撃の標的とされ、彼ら自身の職や学問の道は絶たれました。そして何より彼らの多くが家族をなくしています。ここ活動地では、このような過酷な現実を目の当たりにするのです。

森田光義 総合診療医

2009年よりMSFに参加し、ソマリア、イエメン、南スーダンなどで活動。今年はその度々シリアで緊急援助にあたる。



©MSF

ある日、難民になったら……

私 たちが難民や国内避難民になる日……それは突然やっできます。紛争の場合は予兆がないとは限りませんが、自然災害の場合は本当に予期せぬことです。しかし、どんな場合でも、日常を奪われるということは、愛する人を亡くし、家を失い、さらにはかりしれない困難な生活に身を置き、いつその状態が終わるのかと不安に暮らすことを意味します。

多くの人が日常生活から追われる事態になった場合、通常、政府や国連機関、人道援助団体が衣食住や医療を提供する援助活動を実施します。しかし現実には、本来受けられるはずの援助を、さまざまな理由から受けられない人びとも大勢います。

その第一の理由は資金不足です。援助国や国際機関の財政難が原因になることもあります、事態の深刻さが



MSFの移動診療で診察を受ける子ども。家族はロシアのチェチェン共和国からインゲン共和国に逃れてきた(2005年4月)。

世界によく知られていないためということもあります。

また、治安や政治的思惑の影響もあります。南スーダン南東部のジョングレイ州では、今年6月に政府軍と反政府軍の戦闘が激化しましたが、戦火を逃れた住民が身を隠すことができたのは、沼地だけでした。雨季にはマラリアをはじめとする感染症が猛威をふるう沼地は、避難先ならぬ「死地」にほかなりませんが、南スーダン政府は「治安上の配慮」を理由に人道団体が沼地で活動することを許可せず、人びとに援助が届けられない状況が続いています。

もう一つの大きな理由には、難民や避難民登録という制度があります。難民・避難民を対象とした公的援助を受けるには「難民」「避難民」であるという「目印」が必要です。しかし、避難する人が何千、何万と到着する状況

では、手続きには長い時間がかかります。また十分な情報がなく、登録の必要性を認識していない人もいます。命からがら避難したときに、すぐに「避難民登録をしないで」と思いが至るとはかぎりません。避難先の言語が話せない場合、こうした手続きへの壁は一層高くなります。登録完了までは、援助サービスの一部し



飽和状態のダダブ難民キャンプに入れず、木の枝や布で小屋を建てるソマリア難民の女性(2011年7月)。

か受けられないか、全く享受できません。

援助からこぼれおちる人びと

国際援助は公式の難民キャンプに集中しがちですが、キャンプに住めない人も多数存在します。たとえば、ミャンマーからバングラデシュに逃げてきた人のうち、政府公認の難民キャンプに住んでいるのは1割に過ぎないといわれています。

政治的思惑から、国家が自国内の避難民の存在を否定することもあります。2度のチェチェン紛争によって80万人が避難を余儀なくされたといわれていますが、ロシア政府によって強制避難民と認定されたのは、このうちのごく一部です。

さらに言えば、最も紛争の影響を受けているのは、難民・避難民とはかぎりません。寝たきりの病人のいる家庭のように、弱い立場の人ほど避難が困難でもあります。また、多くの避難民

が到着した先では、住民の生活にも大きな変化が生じます。煮炊きに使う木々や水といった資源や燃料の枯渇、物価の高騰など。影響を受けるのは、現地の住民のなかでも特に貧しい人たちです。

MSFは世界約70の国と地域で活動しています。そのうち27%が紛争地域です。ただし、MSFは彼らが「難民」や「避難民」だから援助を提供するわけではありません。緊急事態で日常を奪われ、命の危機に瀕した人びとのニーズに対応するという活動の結果にすぎません。

むしろMSFは、民間団体ならではの特色をいかし、援助からこぼれた人や、国際社会に顧みられない紛争や災害に影響を受けた人たちに、援助を届ける努力をしています。それらの場所は紛争地や周辺国のみならず、難民がたどりつく欧州諸国も対象です。遠くアフガニスタンやソマリアなどから暴力を逃れてきたものの、受け入れに消極的な政府のために難民登録が長期間完了できず、その結果、医療へのアクセスから疎外された人びとを探し、診療を提供しています。

1人でも多くの命の危機に瀕した人に医療を提供するためにはこのような取り組みが不可欠であり、そこにMSFの存在価値があると信じています。



シリアからヨルダンに逃れた人びとが暮らす仮設難民キャンプ。2013年1月、悪天候で地面はぬかるみ、感染症の危機にさらされていた。

©Michael Goldfarb / MSF

Frontline 編集部より

MSFが慢性疾患の治療を? 緊急医療援助団体のMSFの活動としては不思議に聞こえるかもしれません。けれど、当たり前の日常が突然失われるということは、今日の薬を、治療を、断たれることを意味します。悪化の一途をたどるシリアと周辺国の医療ニーズについて、MSFはウェブサイトを中心に証言活動を続けています。ご意見・ご感想をお寄せください。

➔ frontline@tokyo.msf.org

国境なき医師団 / Médecins Sans Frontières (略称MSF)は、1971年にフランスで設立された非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体。医師、看護師などの医療従事者とアドミニストレーターなどの非医療従事者、のべ6000人の派遣スタッフが、約3万人の現地スタッフとともに、約70の国と地域で活動を行う(2012年実績)。

MSFは、「独立・中立・公平」を原則とし、人種や政治、宗教にかかわらず無償で医療を提供する。また、援助活動の現場で虐殺や強制移住などの著しい人権侵害や圧倒的な医療の不足を目の当たりにしたとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言している。1999年、ノーベル平和賞受賞。

MSF日本は1992年に設立され、2012年までに280人のスタッフを、のべ778回、活動地に派遣。MSF日本の活動資金はすべて、個人を中心とする民間からの寄付金でまかなわれている。

Frontline

[フロントライン]

2013年9月15日発行

国境を超えて命と向き合う

第8号

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本



Facebook,
twitterでも
発信しています

